

仙人通信 109 剣ヶ峰(2020m) 沖武尊山(2158m)

武尊山は谷川岳と海皇山のほぼ中央にある一等三角点の山で、日本 100 名山でもある。招福の神、武尊神社のある藤原口から剣ヶ峰・沖武尊・藤原武尊を一周するコースとした。藤原湖の南側を走り、武尊橋から右折し武尊川に沿って武尊神社へと向かう。舗装された両側では白いヤマユリ・ショウマ・シシウド・トラノオ等が夏を奏でる。武尊神社の横に登山者用の駐車場が完備されているが、更に 1 km程ダートを進むと数台の駐車スペースの利用が許されている。登山者にとっては 30 分以上の時間短縮が出来る。瀬音とウグイスに促されて、15 分程進むと最初の徒渉ポイントで、その先に沖武尊(3.7 k m)・剣ヶ峰(2.2 k m)の道標がある。唐松林の中にある登山道は緩やかな登りで、小さな沢を数回徒渉しながら進む。足元では花の時期を過ぎたマイズルソウ・エンレイソウが緑の実を付けている。青紫の山アジサイ(ガクアジサイ)や白いトリアシショウマが、又濡れた岩肌に白いアリドオシが綺麗である。

1 時間ほどで最後の沢を徒渉し、対岸に渡る。登りが次第にきつくなり、木の根と岩のコースだ、数歩進んでは足のステップを見極めて登るコースである。林も唐松から黒檜やブナへと変わる。コース以外は 1m 以上ある熊笹で覆われている。足元では咲き終わったショウジョウバカマ・マイズルソウ・チゴユリ・エンレイソウが実を結び、トリアシショウマ・ゴゼンタチバナが白い花を付けている。山溪のガイドでは山頂まで 1 時間とあるが 1 時間 30 分ほどかかり、漸く武尊と剣ヶ峰の分岐である。剣ヶ峰まで 0.1 k m とある。はい松・白いシャクナゲの花が散見される中を進む。山頂直下では白いコメツツジ・黄色いオトキリソウや咲き始めたばかりのキンレイカ・アキノキリンソウが迎えてくれた。山頂は 360 度の展望で武尊山を中心に馬蹄形に、カルデラが南側に形成され、大きく挟られた先に前武尊が望める。先程の分岐に戻りカルデラの端の稜線を武尊へと向う。はい松・シャクナゲ・熊笹・クロマメの木に混じりタニフタギの白い花や赤い穂のヤマシグレ・黄色いタカネニガナが青空に映える。いくつかの小さなピークを過ぎて扁平に割れた岩のガレ場を山頂に向かう。紫色のツリガネニンジン・ギボウシ・黄色いキンボウゲ・マルハダケブキ・赤紫のオヤマノエンドウ・エーデルワイスことウスキソウ等が咲き乱れる。なんと 90 分足らずで沖武尊の山頂である。山頂からは谷川に僅かに雲が掛かっている以外、稲包・三国までの谷川連峰、草津白根・浅間・榛名・赤城・海皇・至仏・巻機と 360°の展望である。須原尾根を藤原武尊に向かるとシャクナゲの花に混じり赤いサラサドウダンが見事である。節理の見事な大日如来・胎内潜行等の岩場を鎖・ロープ・階段を使用し下る。白いツマトリソウやマイズルソウが遅れた花を付けている。右手の尾根はタデカンバと熊笹のバランスがとれ、見ごたえがある。山頂から 80 分で手小屋沢避難小屋の道標があり、通過し武尊神社方面の標識に従い、唐松林の緩やかなコースを辿る。沢の徒渉を何度か繰り返し、50 分で剣ヶ峰の分岐に到着し、更に 15 分で駐車場だ。武尊神社に、7 時間 15 分で山歩きが出来た事に感謝の祈りをして、帰路に就きました。(h 24.7 . 26)

剣ヶ峰のコメツツジ



沖武尊の全景



エーデルワイス

